

令和7年度 秦野総合高等学校 第3回学校運営協議会 HP用

令和8年3月4日(金) 18:00~19:30 会議室

司会：教頭

出席者 学校運営協議委員6名、校長、副校長、教頭(定)、事務長、全日総括教諭4名
定時総括教諭2名

欠席者 学校運営協議委員2名、教頭(全)、全日総括教諭1名

1 開会

2 資料確認

3 校長あいさつ

- ・12年4月に秦野曾屋高校と総合学科として再編統合される。
- ・令和8年度入学者選抜から、定時制では募集停止となっている。
本年度の定時制の卒業生は6名である。
- ・授業料の無償化により公立高校の定員割れが起こっている。ぜひ本日は、魅力を持った高校、新校へ向けての意見をいただきたい。

4 議題

(司会) 全ての議題の説明の後にまとめてご意見を伺いたい。

(1) 令和7年度 第2回学校運営協議会 議事録について

(司会) 議事録の確認をお願いしたい。

(2) 令和7年度 卒業生進路決定状況について

【全日制】

(キャリア支援)：大学は本日1名増えて、39名から40名、就職は36名から40名に、その他19名は10名となった。大学は、昨年度より減り、専門学校が多くなっている。進学決定方法は推薦と総合型がほとんどである。

【定時制】

(学校管理)：大学に1名進路決定した。

(3) 令和7年度 生徒による授業アンケート結果について

【全日制】

(学習学事)：生徒自らが選択した科目の充実度が大きい。

【定時制】

(学校管理)：後期の評価が伸びている。

(4) 令和7年度 学校評価実施報告(実施結果)について

【全日制】

(学習学事)：教育課程・学習指導

今年は新カリキュラムから3学年までそろってから2年目となる。生徒の希望と学校側の受け入れ人数等に多少の齟齬が生じている。次年度は科目の置き方等調整していきたい。

(生活指導、生徒支援)：(幼児・児童・)生徒指導・支援

部活動加入率を伸ばしていきたい。その中で女子バスケットボール部が県ベスト4、国体代表者に1名選出、女子バレーボール部は先日の春高バレーでベスト4となりあと一歩で全国大会であった。女子ソフトテニス部は関東大会に出場と活躍している。教育相談に関してはかながわこどもサポートドックの浸透とともに早期に担任、SCやSSWにつながった。また、SSWによる講話等の実施もした。

(キャリア支援)：進路指導・支援

2年次の産業社会と人間の授業において秦野市内の20近い企業に来校していただき生徒が個々に企業の話を書く機会を設けた。大卒と高卒の採用の違いのお話は大変好評であった。この授業は企業からも好評であった。県の事業の指定にもなっている総合的な探究の時間においては、1年目の今年は教員の研修として県内外の総合学科高校を訪れた。また、3年次の就職活動においては求人票の閲覧方法を紙媒体からネット閲覧できるように環境を整備中である。進学においては進学する志望動機等をうまく表現することができない生徒が多くいることが課題である。

(生徒支援)：地域との協働

部活動・生徒会生徒による南が丘地区を中心としたボランティア活動やあいさつ運動を実施した。ボランティア活動に参加する生徒が減少したが、ボランティア部の活動として地域高齢者施設等との関係を深めた。南が丘小学校の支援級の生徒を招いて授業の一環ではあったが、フローアホッケーを楽しんだ。

(副校長)：学校管理・学校運営

HPを中心とした広報活動を積極的に実施した。次年度においては秦野曾屋高校との統合を視野にいった、学校案内の大幅な改定が望まれる。学校訪問や学校説明会の参加を積極的に行ってきた。

(管理運営)：防災

年3回の防災訓練を実施した。消防署より、地震に対する訓練は行われているが火災訓練が実施されていないと指摘があった。次年度は消火訓練を含めた防災訓練を実施していきたい。

【定時制】

(学校管理)：教育課程・学習指導

生徒の学力差もあり、個に合わせた少人数指導を行ってきた。地域の教育機関との連携を実施しているが、生徒数減により参加者数を伸ばすのが難しい現状がある。

(生徒指導)：(幼児・児童・)生徒指導・支援

生徒数が少ないことより、普段から生徒情報の共有を図っている。学校に来られない生徒への手立てが難しい。SSWへ繋いでいる。

(学校管理)：進路指導・支援

外部機関との連携の強化においては進路ガイダンス等、昨年度と同等に実施した。早期の進路支援の必要がある。

(生徒指導)：地域等との協働

10月に17:30より学校周辺の清掃活動を行った。

外部機関と連携して講演会等効果的に実施した。

(学校管理)：学校管理学校運営

教員間の業務内容の共有を丁寧に行ってきた。HPを活用した情報発信に努めた。

(司会) ここまで学校より学校評価報告書をもとに活動を報告させていただいた。

感想を含めた質問や意見を頂きたい。

- (副校長) 来年度に生かせるご意見を頂きたい。
- (委員) 学校と企業運営は似ている。生徒減となっている現在、選ばれる学校づくりをしなければならない。選ばれる特色ある学校づくりを目指してほしい。我々が手伝えることがあれば遠慮なく申し出てほしい。
- (委員) 産業振興課からの申し出により企業の来校が実現できたとあったが、コロナ以前は実施していたのか。
- (キャリア支援) 本年度が初めてであったが、昨年までは産業振興課が高校生を呼んで実施していた。
- (委員) 民間企業の就職内容において市内の就職が少ないことに気付いた。地元で学び地元就職してほしい。今年で委員4年になるが、コロナ明けで行事が増えてきた矢先に定時制の募集停止が発表された。この発表を聞いた市民が一定のニーズがあるのになぜ停止にするのかと苦情が入った。R12年4月の統合を見据えて、自分の意志で将来を決定していくような能動的な行動のとれる生徒の育成が、総合高校の強みであるとする。部活動の盛んなところも残していくことも協議に入れて、存在意義のある高校にしてほしい。
- (委員) 4つの意見を伺いたい。1つ目は無償化によって多くの高校が募集に難儀したと思うが、生徒支援として総合高校を目指すものが、部活動であるのか、いろいろあると思うが教えてほしい。2つ目、就職説明会は年何回開かれているのか？また企業の掘り方をどのように行っているのか？3つ目、学校に対する意見・要望の集約のシステム、連絡ツールをどのように強化していくのか？4つ目、総合高校としてのカリキュラムの取り組みを教えてほしい。
- (校長) 1, 4を合わせて答えたい。南が丘高校時代にスポーツクラスがあり、当時から部活動を熱心に取り組んでいた。総合学科の特長を生かしてスポーツ概論の授業を通して自分の専門性を伸ばしていくことができる教育課程が本校の意図であったが、他の生徒にスポットライトを当てることも必要である。統合後は、曾屋高校の進学を目指す生徒や外国語に力を入れている特長があるので、それらを生かして総合学科では多様な科目を選択科目の中に設定していく。また、選択科目を将来の職業に結び付けていくことや、進学にも結び付けていくことが総合学科の魅力になっていく。
- 全県ですぐーるという連絡ツールを新年度より導入する。災害でダウンしないツールが重要である。
- (委員) 中学校長着任後あいさつ運動に参加して、多くの部活動の生徒と交流を持って楽しかった。継続してほしい一つの活動である。高校受験を控えた中学生の面談の中で入学後は部活動を頑張りたい、行事を楽しみたい、勉強、青春などがあげられる。生徒会組織の下部に部活動が存在するので、生徒会活動も入れ込んだ魅力づくりも大切である。ICTの利活用においては子供たちはよく使いこなしているが、職員が追い付いていない。
- (副校長) 小学校への視察も行った。県立高校では初任者研修の中に他校訪問や他校種訪問が実施されているが、これにとらわれず生成AIの授業を行っている他県の高校訪問も行った。
- (委員) 探究の発表会など高校との生徒や教師の交流が持てると思う。
- (副校長) 小学校とは活発に行っているが、中学校とも出来たらいいと考える。
- (委員) 校長先生からは進学を増やしたいという意向があったが、総合学科としては多様なカリキュラムがあり、いい進路結果の割合であるとするが、総合学科として目指す、大学・短大・専門学校・就職の適正な進路割合はどのくらいであるの

か。

(キャリア支援) 就職が2, 3割であるのが総合学科の標準である。6月の調査では、短大希望生徒の変更はなかったが、専門学校希望生徒の変更が多かった。

(委員) 進路決定先は外に出る資料でもあるし、インパクトのあるものである。総合学科の特色を出すのであれば、多様な分野の就職や、多方面の専門学校、いろいろな学科の大学に進んでいることをデータや円グラフ等で示せばよいアピールになるのではないか。

授業アンケートが授業改善につなげられるように、自由記述があり、「～が良かった」が増えると、職員の意欲につながるのではないか。

学校評価内にあるHPの活用以外のツールの活用はあるのか。

(校長) 探究の調べにおいて#(ハッシュタグ)検索が多い。#はHP検索ができない状況である。部活動等においてはインスタグラムを用いて発信している。学校からの発信については今後の検討である。

(委員) 定時制においては募集停止になっており、在校生の授業等では苦しい段階に入ってきているのではないのか。体育の授業では縦割りに行うとか何か工夫をされているか。

(学校管理) 授業は選択科目が多いので、少ない人数ながらも対応はできている。卒業に向けた意識は高いが、行事への参加が悪い現状がある。

(委員) 高校の授業料の無償化においては、親が大きくかかわっていることで、子どもたちは高校を選ぶうえで、一番楽しい部分の学校行事や部活動などが大きい要因となっている。子供たちの期待する部分を中学生にアピールしてほしい。

6 閉会